

# 女君で紐解く「源氏物語」

その五

## 女君 四・女三の宮

四十歳を前に准太上天皇の地位にのぼりつめ、  
いよいよ絶頂を極めた源氏。

ところが、四十歳の二月、朱雀院の強い願いで、  
愛娘の女三の宮が、源氏の正妻として  
六条院に迎え入れられたことによって、  
源氏、紫の上、女三の宮、柏木、  
それぞれの運命が劇的に動いていきます。

解説 三田村雅子

朗読

鈴木千秋

中里貴子

2024.10.24. (木)

13:30 (開場は30分前から)

入場料 3,000円 (全席自由席)

千代田区立日比谷図書文化館 B1

日比谷コンベンションホール

千代田区日比谷公園 1-4

【お問い合わせ】

VZD07320@nifty.ne.jp (鈴木)

090-6565-6250 (中里)

不在時には留守番電話に伝言をお願いします。  
後ほど折り返しご連絡します。



# 女君で紐解く「源氏物語」その五

## 女君 四・女三の宮

今回は、女三の宮に焦点をあてて物語を探っていきます。  
母亡き娘として寵愛してきた女三の宮の将来を思い悩んだ、  
父・朱雀院の強い願いによって、源氏のもとに降嫁してきた女三の宮。  
事態の重要さを悟る紫の上は、内面の動揺を抑えて冷静に対処しますが、  
源氏との間に生じた溝は深まるばかりです。

そして、三月末、六条院で蹴鞠が催され、遊びに加わった柏木は、  
はからずも女三の宮の立ち姿を垣間見して、女三の宮への思いを深めていきます。

この偶然の出来事から、源氏、紫の上、女三の宮、柏木、  
それぞれの運命は劇的に動き始めていきます。

源氏研究の第一人者・三田村雅子先生の解説と、  
鈴木千秋・中里貴子の原文の朗読でお楽しみください。

### 出演者 ☆ Profile



撮影・浅野いずみ

三田村雅子  
Masako Mitamura

東京生まれ。早稲田大学大学院博士課程、フェリス女学院大学教授、上智大学教授を経て、現在フェリス女学院大学名誉教授。「源氏物語」と「枕草子」を主な専門とし、幅広い観点から古典文学を捉える。朗読文化協会理事。NHK教育テレビの「古典への招待」で長年講師を務めた。2001年から9年がかりで、彩の国さいたま芸術劇場において「源氏語り五十四帖」を解説・三田村雅子、朗読・幸田弘子で公演。著書：「源氏物語 感覚の論理」「枕草子 表現の論理」（有精堂）、「源氏物語 物語空間を読む」（ちくま新書）、「源氏物語絵巻の謎を読み解く」（三谷邦明との共著・角川選書）、「源氏物語を読み解く」（秋山虔との共著・小学館）、「天皇になれなかった皇子のものがたり」（新潮社・とんぼの本）、「記憶のなかの源氏物語」（新潮社）、「100分で名著ブックス 紫式部 源氏物語」（NHK出版）など多数。



鈴木千秋  
Chiaki Suzuki

朗読家。東京生まれ。舞台朗読の第一人者・幸田弘子氏に師事。2000年「朗読グループ・幸風」を立ち上げ、10年間毎年公演を主宰。樋口一葉、夏目漱石、宮沢賢治、太宰治、宮部みゆきなどの近現代から「源氏物語」「おくのほそ道」など古典まで幅広く朗読。現在、フェリス女学院大学、早稲田大学オープンカレッジ、神楽坂朗読サロンなどで講師を務める。師匠の幸田弘子氏と、07年、JAL国際線の機内オーディオ「千年紀によせて～源氏物語が誘う雅な音世界～」、08年、軽井沢大賀ホール「源氏物語～葵～」でナレーションを、また14年からは毎年「一葉忌」で共演。ピアニスト・遠藤征志氏の「源氏物語54帖の響」と出会い、18年より「ピアノと朗読で奏でる源氏物語」を毎年開催している。



中里貴子  
Takako Nakazato

朗読家。元群馬テレビアナウンサー。舞台朗読の第一人者・幸田弘子氏に師事し、2000年「朗読グループ・幸風」設立に参加。現在は、共立女子大学、早稲田大学オープンカレッジ、ボヌール朗読教室などで講師を務める。NPO法人「鎌倉てらこや」では、子供、学生、大人の三世代が参加する朗読会で特別講師として長年活動。海外では、豪州シドニー大、ベトナム・ハノイ大、韓国・仁荷大、インド・ネルー大で朗読。12年より「中里貴子朗読会」を開催。主に樋口一葉、宮沢賢治、夏目漱石、「おくのほそ道」「源氏物語」と近現代から古典まで幅広く発表。14年から毎年、師匠の幸田弘子氏と「一葉忌」で共演。また寺院の行事でお釈迦さまの生涯をまとめた作品を朗読している。